

座禪洞だより

■ 岐阜環境医学研究所・座禪洞診療所
 ● 呼吸器疾患・禁煙治療・漢方相談
 診 察 日：月曜・木曜・金曜
 受付時間：9:00~12:00、
 〒502-0017 岐阜市長良雄総878-16
 IP Tel:058-295-9545
 FAX:058-296-3903
 E-mail:zazendoh@ccn.aitai.ne.jp
 http://zazendoh.town-web.net/

156号 2017.3.1.
 毎月1回発行 座禪洞診療所 松井英介



「原水爆・原発は反対です」

松井英介

「原水爆・原発は反対です」

2. 25ビキニデー63周年東京集会会場に置かれた、大石又七さん手作りの第五福竜丸の模型に添えられた言葉です。

又七さんは、1954年3月1日南太平洋上でアメリカの水爆実験の死の灰を浴び、焼津港に戻った23人の第五福竜丸乗組員のひとり。全員が収容された東京の二つの国立病院で半年後無線長の久保山愛吉さんは亡くなり、荷揚げされた核汚染マグロは廃棄、築地市場に埋められました。又七さんは自分たちが作ったまぐろ塚を一日もはやく築地に立てたいのです。

又七さん自身、肝臓がんの手術でも苦労しましたが、船乗り仲間のほとんどは早死でした。初めての子どもが障害をもって死産したときは、「もう終わりだ」と絶望的になりました。

いま83歳の又七さん、去年は車いすでしたが、今年は杖を手にゆっくり自分の脚で歩いて、会場の渋谷区立勤労福祉会館まで来られました。顔色もよく、しっかりとしたまなざし、その回復ぶりに、私はうれしくなりました。

又七さん手作りの第五福竜丸の模型について、私との対談で尋ねたところ、八隻作ったうちの一隻はマーシャルの島民にプレゼントしたこと。そして、話はいつしか第五福竜丸本体の話になっていました。

又七さんは14歳で漁師になり、19歳のとき、110tの福竜丸で遠洋航海に出ました。ところがそれまで乗っていた鉄製の船と違って、戦直後に作られた木造の船だったので怖くて、はやく下りたかった。でも、生家は貧しかったので、漁から戻って親たちの顔を見ると、やめるとは言えませんでした。

今まで全国各地700校以上の子どもたちに、とくに中学生たちに、自分の経験を伝えてきました。伝えることが、生きることに繋がりました。被ばく手帳を交付されなかったビキニ被災乗組員のために船員手帳を利用するように手を尽くしました。

大石さんにとって第五福竜丸は切り離しがたい人生の一部であり、人間の尊厳を踏みにじる者たちへの不屈の闘いのよりどころともなっているのだと、私は感じました。

先日NHKBSプレミアムで放映されたノーベル文学賞作家「アレクシエービッチの旅路 チェルノブイリからフクシマへ」を観ました。チェルノブイリ大惨事の被害者を丹念に取材した彼女は、フクイチ被害者の声が聴きたかったのです。番組の終わり近く、「日本には抵抗の文化がない」と語った彼女の言葉には重いものがあります。彼女にはぜひ、核によってひとのいのちを奪い尊厳を踏みにじてきた者たちと闘い続けてきた又七さん、そして被ばくさせられない権利を主張して国を相手に裁判を起こした井戸川克隆さん、汚染地から全国各地に移住した勇気ある被災者を取材してほしいと、私は思っています。また、たぐいまれな抵抗のドキュメンタリー映画「抗い—記録作家林えいだい」の上映が始まりました。この作品の主人公林えいだいさんと監督西嶋真司さんには、ぜひとも又七さんの声を聴いていただきたいものだと願っているところです。